



第35回あづみ野菊花品評会「秋の安曇野」



発行所
穂高神社社務所
創刊 昭和52年2月
〒399-8303
長野県安曇野市穂高6079
電話 0263-82-2003
FAX 0263-82-8770

納頂き10月14日に奉納式を行いました。

安曇野市穂高北穂高の崇敬者清沢浩之様より小川大系先生作「碌山胸像」を御奉

小川大系作「碌山胸像」奉納

小川大系先生 略歴

明治31年11月、安曇野市穂高(等々力)に生まれ、本名孝義(もとよし)。農業の傍ら表具師の修行をする中、御船祭などの穂高人形・飾り物に才能を発揮、35歳の時、山本安曇に才能を認められ、北村西望(文化勲章受章・長崎の平和像作者)に入門、門人随一と評価された。図案や建築設計にも才を発揮し、北村西望の別邸などの設計も行った。その後は、文展・日展等官展系作家として活躍した。戦災でアトリエが焼失し、郷里へ疎開し、戦後は郷里にとどまり、碌山の顕彰活動の先頭に立ち、碌山美術館建設計画の中で、具体的設計図を作る等活躍した。又、当社へは昭和15年に狛犬、24年には神馬を制作した。



北村西望に才能を認められ、

安曇野新そば奉納

11月8・9日当社神社楽殿にて安曇野新そばの奉納が行われ、女性2名の方がそばを打ち、御前へと奉納されました。



志賀海神社 七夕祭「薪能」参列

8月6日に志賀海神社の七夕祭に参列致しました。

夜の祭典ということで、昼間は志賀海神社に参拝し、祭典の準備でご多忙中にも関わらず、平澤権禰宜さんに応対をして頂き、薪能を開催するまでの経緯などを聞かせて頂きました。

午後7時20分祭典が始まり、その後いよいよ薪能が演じられました。演者は翁と千歳(せんざい)、お囃子方の計7名でありました。



翁は京都観世流能楽師片山伸吾氏で、片山家では代々、滋賀県日吉大社において「元旦神事として「ひとり翁」を奉納されているそうです。「宵待之翁(よいまちのおきな)」という演目で、宵の口

に舞うことから、片山伸吾師がその命名をしたということ。翁の祝福の歌の後、千歳の片山峻佑氏(片山伸吾師の長男で九歳)が生き生きと露払いの舞を見事に舞っておりました。

その後30分位、煎茶道家元中澤弘幸氏の講話がありました。阿曇氏と志賀海神社に関する話を中心でした。中澤氏は、阿曇氏が古代北九州で海人を司り海上を支配し、志賀島と海の中道を含めた一帯が阿曇氏の本拠地であったと述べており、志賀海神社が全国の綿津見神社・海神社の総本社のな神社という話もされていきました。拝殿の照明と拝殿外の篝火の灯りで七夕祭にふさわしい幻想的な雰囲気醸し出していました。これも由緒ある志賀海神社で開催されたというところが、より意義深く感じられたのではないかと思います。

関係者方々のご尽力と、地元企業の協賛により素晴らしい薪能を拝見することができました。

安曇野道祖神(UD)

昭和58年に故西川久壽男先生を講師に招いて始まったこの行事も、今回で第30回目の節目の年を迎えることとなりました。今年も昭和59年の第2回道祖神まつりでも行った柏原倉平地区の御柱行事を、JR穂高駅前道の道祖神に再現する

という試みでした。

1日目に60名程集まった参加者の皆様には、御柱の飾り付け作業から運び出しまで加わって頂き、穂高駅前の道祖神に立派な御柱を立てることができました。その後



御柱の立てられた穂高駅道祖神前にて祭典を行い、引き続き穂高神社参集殿にて講演会を行いました。講演会に先立ち、倉平御柱保存会会長の伊藤照門先生に倉平地区の御柱についてお話を聞き、講演会では例年通り石田雄哉先生と窪田雅之先生をお招きし、講演を賜りました。安曇野の道祖神と御柱に



ついでのお話で、大変分りやすく参加者の方も熱心に聴講しておりました。

2日目の道祖神巡りは、穂高、堀金、豊科地区の道祖神を巡拝致しました。安曇野地域には6000体近くの道祖神がある中で、今回は厳選された21体を見学致しました。常念岳の眺望がすばらしい常念道祖神や菊花紋道祖神、神代文字碑等この辺りでは見られない珍しい道祖神を巡拝することができました。

また、第30回ということで、特別にご協力頂きました倉平御柱保存会の皆様や、道祖神まつりの記念品の製作、昼食時の豚汁、おはぎの振る舞いをして頂きました敬神婦人連合会南安曇支会の皆様にも感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

祝七五三



奉納子供相撲

新春祈願・交通安全祈願大祭の御案内

新しい年を迎え 感謝と祈りをこめて…

今年もあとわずかととなり、何かと気ぜわしい日々をお過ごしのことと存じます。

今年、二月の大雪や豪雨による広島市の土砂災害と、御嶽山での噴火など天地のもたらす災害による事故、又子供・高齢者といった弱者への暴力による事件が多発した年であり、自然の恐ろしさとともに人々においても思いやる心を改めて痛感させられる年でありましたが、経済では円安に伴う外国人旅行者の増加に若干の上昇が見られ、また出雲大社では千代宮磨様、高円宮野理子様とご結婚と日本人ノール賞受賞におめでたい年でもありました。

人は太古より自然がもたらす恵みと災いに祈りに捧げて参りました。そして、常に将来への安寧と向上発展は、日毎毎の感謝と日々のためまめ努力の積み重ねによって成り立つものであります。

総高神社では進歩した便利な時代への感謝と交通安全・安らかで豊かな暮らしへの祈りを来年も続けてまいります。

ご家族・企業の皆様には穏やかな年頭のあたり總高神社の新しい御加護を頂かれ、安泰と向上・願いの成就を祈りにお越し頂きますよう、謹んで新春祈願大祭のご案内を申し上げます。

一、期間 一月一日(八日) (受付九時～十六時)

一、内容 交通安全、家内安全、事業繁栄、商売繁盛、厄除、八方除、試験合格、学業成就、病氣平癒、身体健全、開運招福、心願成就、安産、お宮まいり、初誕生祝い、災難除、職場安全、子宝、良縁祈願、夫婦円満、歩行安心、お礼参り、人形供養、ものけの祓、他願い事。

一、祈禱料

普通祈禱 五、〇〇〇円 追加祈禱 三、〇〇〇円
特別祈禱 一〇、〇〇〇円 追加祈禱 七、〇〇〇円
交通安全祈禱 一台につき 五、〇〇〇円
普通祈禱 一台につき 五、〇〇〇円

特別祈禱 一台につき 六、〇〇〇円
(二台目から三、〇〇〇円)
特別祈禱 一台につき 六、〇〇〇円
(二台目から三、〇〇〇円)

厄除・八方除の特別祈禱祭のご案内

平成27年厄年を迎える方、八方寒りの方はお戦いをお受けになり、大神様のご加護のもと平穏無事で明るく充実した生活をお送り下さい。

〔厄年・やくとし十三参り〕

古来より人生において心身の節目や責務の重き時期で事故、病氣、災難など障害の起きやすい年廻りとされています。

〔厄年覧表(数え年)〕

		女性		男性				
男女共通十三参り	61歳	37歳	大厄33歳	19歳	61歳	25歳	前厄	平成4年生
	昭和31年生	昭和55年生	昭和59年生	平成10年生	昭和31年生	昭和50年生	本厄	平成3年生
	昭和30年生	昭和54年生	昭和58年生	平成9年生	昭和30年生	昭和49年生	後厄	平成2年生
	昭和29年生	昭和53年生	昭和57年生	平成8年生	昭和29年生	昭和48年生		
	平成15年生							

〔高齢の厄年(数え年)〕

産まれた年の干支がもとの干支に戻ることを長寿の祝とした60歳の翌年が通常の厄年の最後であることから、現代では長寿祝を迎えた年(古希70歳・喜寿77歳・傘寿80歳・米寿88歳・卒寿90歳)の翌年が高齢の厄年となります。

男女とも					年齢(祝歳の翌年)	生まれ年
91	89	81	78	71		
歳	歳	歳	歳	歳	昭和13年生	昭和10年生
昭和2年生	昭和10年生	昭和13年生	昭和20年生	昭和20年生	昭和14年生	

厄除・八方除の特別祈禱祭は 1月10、11、12日に実行致します。

平成二十七年 一番祈禱のご案内

【ひとりひとりが受けられる成就の鈴銀い】

年明け午前0時の時報とともに、初春のよろこびを神様にお告げし、天下泰平をお祈りする歳旦祭にひき続いて、新年の一番祈禱を斎行致します。二年参り・初詣には様々な願いを胸に祈られる事と存じます。

そんな多くの願いを必ず叶えていただけるよう、新年の巫女舞を加えた一番初めに一度しか行われない大変貴重な御祈禱です。

御祈願内容のすべての願いを込めて御祈禱致します。

一、祈禱料 一〇、〇〇〇円
お申し込みは、電話・ファックス・メールにてご予約下さい。

当日申し込みの方は、31日午後11時より受付致します。ご予約済の方は午後11時45分に拝殿授与所までお越し下さい。尚、ご参列不可能な場合は御神札等郵送致します。

【八方塞り:はっほうふさがり】

九星は人間の運勢や吉凶の判断に用いる九つの星のことで、九星年盤の中央に入る星を本命星といいます。本命星にあたる方が八方塞りの年で、周囲八方ふさがれ、八方どの方位方面に向かってても不吉な結果を生じ障害があり、手の打ちようのない不安定な年廻りとされています。

九星年盤 平成27年 八方ふさがりの方 (三碧木星・男女)

■男・女八方塞りの年まわり表		数え年	
三碧木星	生まれ年	平成18年	10歳
	年齢	平成19年	19歳
		昭和63年	28歳
		昭和54年	37歳
		昭和45年	46歳
		昭和36年	55歳
		昭和27年	64歳
		昭和18年	73歳
		昭和9年	82歳



崇敬会通信

崇敬会総会を去る9月7日(子供祭の日)穂高神社参集殿に於いて開催され、会員35名の出席を賜りました。議案はすべて満場一致にて可決頂きましたこと、衷心より御礼申し上げます。

また、平成26年度より衆議院議員務台俊介様に顧問をお願いしたところ快く引き受けて頂きました。

崇敬会新入会員

(平成26年5月1日、平成26年10月31日)

個人会員

- 飯島みゆき 松元 久子
- 上田 茂 平野 祐次
- 高瀬 晴行 深澤 晃司
- 玉水 敬藏 川口 真男
- 長江章太郎 井上つぐみ
- 小林 聡

名誉会員

- ライフコメリ 高野 美博

第10回穂高神社写真コンテスト

作品募集

安曇の祖神とする穂高神社本宮、上高地奥宮、奥穂高岳山頂に鎮座する嶺宮にかかわる風景・祭典など四季折々の穂高神社を映し出す作品を募集しています。

小中学生の部もありますので応募お待ちしております。

詳しくは穂高神社ホームページをご覧ください。

各祭典行事

大祓式	平成26年12月31日午後3時
除夜祭	午後11時30分
元日祭	平成27年1月1日午前零時
節分祭	2月3日午後4時
奉射祭	3月17日午後3時
秋葉社宵祭	3月23日午後8時
本祭	24日午前10時
勸学祭	3月29日午前11時
末社祭	4月8日午前10時
蔵島社宵祭	4月17日午後8時
本祭	18日午前10時
穂高壘社宵祭	4月19日午後8時
本祭	20日午前10時
菅原社宵祭	4月24日午後8時
本祭	25日午前10時

節分豆まき

平成27年 年男・福女募集

来る平成27年2月3日午後4時に行われる節分祭の豆まきに、ご奉仕いただける方を募集いたします。ご希望の方は、神社までお知らせ下さい。

◎参加料…5,000円

神楽殿より福豆(景品付き)

福銭をまきます。皆様の御参拝をお待ちしております。

神社の豆知識

氏神と崇敬神社について

全国の神社については、皇祖天照大御神をお祀りする伊勢の神宮を別格の御存在として、このほかを氏神社(産土様)と崇敬神社の二つに大きく分ける事ができます。

氏神社とは、自らが居住する地域の氏神様をお祀りする神社であり、この神社の鎮座する周辺の一定地域に居住する方を氏子と称します。

元来は、文字通り氏性を同じくする氏族の間で、自らの祖神(親神)や、氏族に縁の深い神様を氏神と称して祀ったことに由来し、この血縁的集団を氏子と呼んでいました。現在のようないくつかの縁の深い神様について、次第に氏神・氏子という呼び方が、混同して用いられるようになりました。

これに対して崇敬神社とは、こうした地縁や血縁的な関係以外で、個人の特別な信仰等により崇敬される神社をいい、こうした神社を信仰する方を崇敬者と呼びます。神社によっては、由緒や地勢的な問題により氏子を持たない場合もありますが、このため、こうした神社では、神社の維持や強化活動のため、崇敬会などといった組織が設けられています。氏神社と崇敬神社の違いとは、以上のようなことであり、一人の方

が両者を共に信仰(崇敬)しても差し支えないわけです。

第29回二十人展開催

平成27年1月元旦より3日まで穂高神社参集殿にて第29回二十人展を開催します。第28回までは、11月の文化の日の土日に合わせ開催していましたが、より多くの方々にご覧頂きたく元旦より3日間行うこととなりました。

今回も安曇野市名誉市民である故高橋節郎先生を始め29名の作家の漆芸、ガラス細工、木彫、家具、また奉納された小川大系作「礫山胸像」などの多くの作品が展示されます。是非、この機会に魂のこもった作品をご覧頂けたら幸いです。

三九郎 一月十二日

●午後1時頃より餅つき、餅つき終了後点火。お餅は、おしるこ・お雑煮にして振るまいです。

編集後記

平成28年式年遷宮祭奉祝事業神楽殿改築工事を、平成27年3月下旬より行います。竣工予定は平成27年9月となっております。その間、工事の為参拝者にはご迷惑をおかけしますが、ご了承願います。